

# ジュニア・サミット以降の国際会議が開催



ロビーでの意見交換



研究発表を聞く参加者



英語であいさつする市長



国際会議「ICEP-IAAC2018」での基調講演の様子



通訳ボランティアが案内する様子

市では平成28年4月のジュニア・サミット開催以降、さまざまなインバウンド事業に取り組んでいます。そうした中、市はジュニア・サミット開催後、初となる国際会議「ICEP-IAAC 2018」の誘致に成功し、ホテル花水木で4月17日から21日の5日間、開催されました。この会議では、半導体の素材となるシリコンの加工技術（ICパッケージング）に関する研究発表などが行われ、海外からの150人あまりを含め、400人を超える人が、桑名市を訪れました。

会場内の観光案内ブースには、県および市をPRするパンフレットが並べられ、桑名市国際観光通訳ボランティア連絡会の人たちが、観光や食事、土産物、公共交通機関

関などの案内のほか、その他の困りごとにも対応しました。

4月16日には、関連する国際会議「2018 Japan - Taiwan Workshop on Electronic Interconnection」が、くわなメディアライブで開催されました。この会議は、学生を中心としたエレクトロニクス向け微細接合技術に関するワークショップで、日本と台湾の学生が、自身の研究内容について熱心に英語で発表をしていました。

今回の国際会議の開催による経済波及効果は、市を中心に県内で約3500万円と試算されており、期間中は、桑名駅周辺の飲食店に多くの参加者が訪れていました。



飲食店に歓迎ポスターが掲示され、多くの会議参加者が来店されました。

この記事に関するお問い合わせは、観光文化課（☎ 24 - 1231 FAX 24 - 1140）へ。